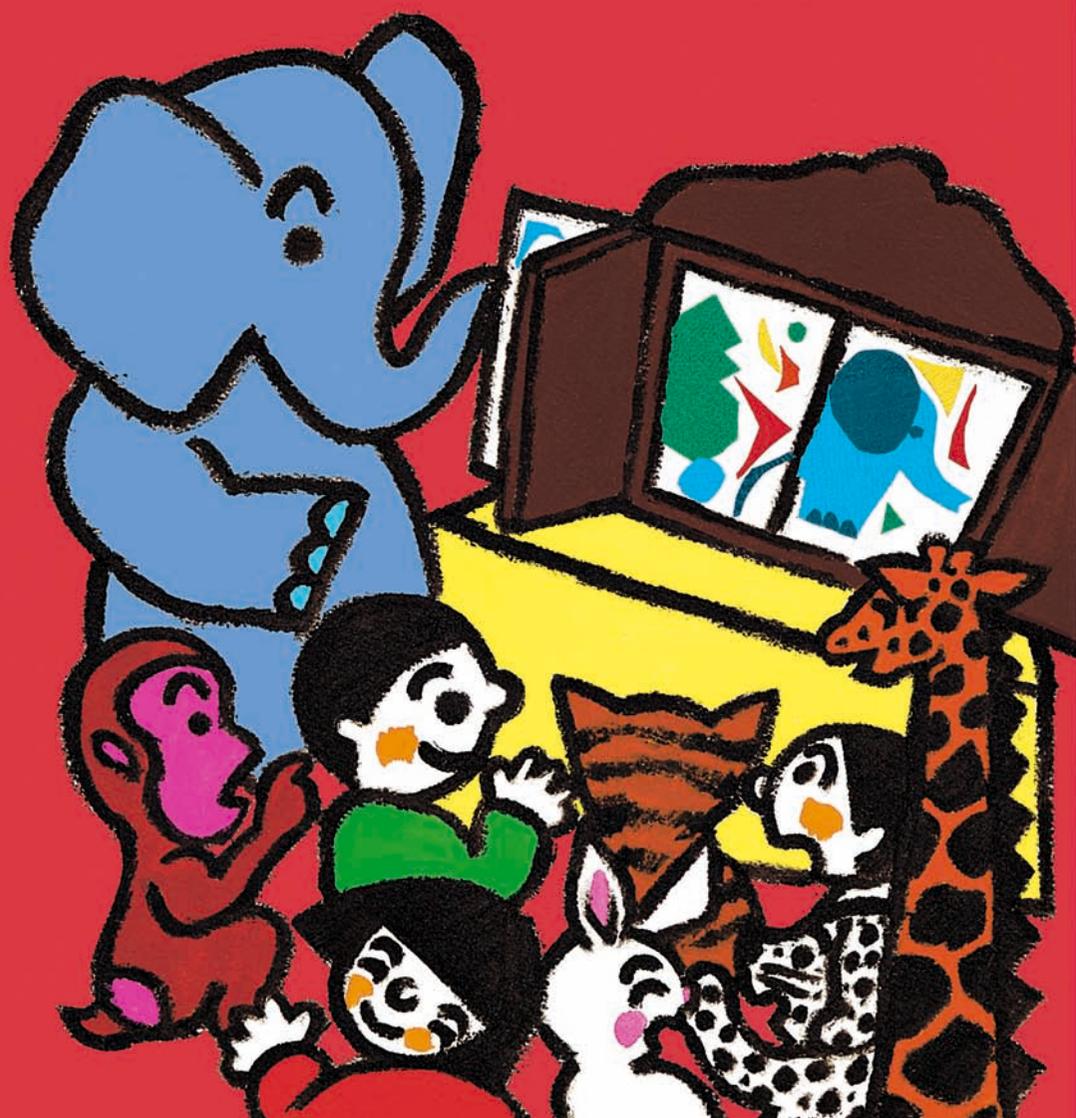


紙しばいだいすき

童心社





紙芝居「小さな劇場」の魅力

松谷みよ子

毎週土曜日、二時には〈本と人形の家〉で紙芝居がはじまる。小さなひざをならべて紙芝居にききほれ、みとれている子どもたちをみると、いつもしあわせな気持ちになる。

〈本と人形の家〉は私の家の庭に立っている愛らしい（などと持ち主がいつてはわるいのだけど）建物で、この六月で二十六年になる。この文庫で紙芝居をみて育った子はどのくらいの数になるだろう。

紙芝居は日本独特の文化財で、いま、ベトナムやアメリカにもひろがりつつある。一枚の絵をつぎつぎ引き抜きながら、文章を語り、セリフをいうのだが、ただそれだけのこと、なのに演じる側とみる子どもたちの間に、びーんとした緊張が生まれる。まさしく小さな劇場が出現するのだ。

この肉声と絵による演劇的空間をさらに充実させるために〈本と人形の家〉では和太鼓や、奄美の太鼓を使っている。歌舞伎の世界で和太鼓は、あるときはおどろおどろしい世界を、ある時はしんしんと降りつもる雪を表現する。紙芝居でもここぞというとき打ち鳴らす太鼓がどれほど子どもたちの心をかきたてるかしのれない。観客の子どもが太鼓をかまえて参加したり、私にもやらせると演者になつたりもする。何人もの子がセリフを受け持つこともある。演じたくなるのだ。

観客から演じ手へ、これもまた紙芝居の魅力だろう。〈本と人形の家〉では紙芝居の貸し出しもして、こうした要求にこたえている。するともう、その子の家にも「小さな劇場」が出現するのである。

（作家・1998年）

楽しく演じてみませんか

—— 紙しばいの特色と素晴らしさ

「紙しばいをやりますよー」と言うと、子どもたちはわれわざきにかけてきます。子どもは紙しばいが好きです。なぜ子どもは紙しばいが好きなのでしょう？ 紙しばいとは、いったい何なのでしょう？

紙しばいは、表に絵、裏に文が書かれたばらばらの何枚かの紙でできています。それを舞台に入れ、子どもたちにむかって、文を読みながら、一枚一枚順番にぬいてお話をすすめていく、という形態をもっています。この時、お話を読んでいくのが演じ手です。

●子どもたちは、演じ手の声を聞きながら画面を見ていきます。絵だけを見るの

ではありません。声だけを聞くのでもありません。絵と演じられる声がひとつに溶けあいながら紙しばいは進んでいくのです。紙しばいが、子どもにとって親しみやすいと言われるわけが、ここにありません。

●紙しばいの絵は、テレビや映画の画面のように動きません。ひとつひとつ画面が変わっていくだけです。アニメーションのようなスピードもありません。しかし、このゆっくりとしたリズムは、子どもが本来もっている心や身体のリズムに合っています。ですから、子どもたちにとって紙しばいを見ることは、とても

はひとつになります。

紙しばいは静かにお行儀よく黙って見なければならぬものではありません。自由に声をだしたり、時にはじつと画面に見入ったり、となりのお友だちやみんなの存在を感じながら楽しむものでもあるのです。観客同士の心がつながるのが紙しばいの素晴らしさです。

●紙しばいのもつ大きな特質に、演じるということがあります。

子どもたちは、演じ手の声を聞き表情を見るだけではなく、演じ手の存在そのものを受けとめながら紙しばいを楽しみます。演じ手と観客の心がつながり、ひとつになるのも紙しばいの大きな特徴です。



こちよいことなのです。ここにも、子どもたちが紙しばいを好きな理由があるので。

●紙しばいは、お兄ちゃんが演じ、妹が見る、というように演じ手ひとり観客ひとりという場合もあります。しかし、紙しばいの醍醐味はたくさんのお友だちといっしょに楽しむことにあります。絵本のようにひとりで、その世界に入る楽しさとは質の異なる楽しさが紙しばいにはあります。

大勢の中に身をおいて、いっしょに紙しばいを楽しむこと、いっしょにハラハラドキドキしたり、いっしょに笑ったり……。となりにいるお友だちが大きな声をだすのをおもしろいと思ったり……。いろいろなことを感じながら紙しばいを見ると、心と心が響きあって、その場

1 紙しばいのもの素材さ

紙しばいには大きな仕掛けは必要ありません。紙しばいと舞台と演技手、そして観客がいれば、いつでもどこでもだれでもやる事ができるのです。

また、紙しばいは、見ている集団が同時にその作品を理解し楽しむことが大事です。

この形態を受けて紙しばいでは、作者は語りたいたことを簡潔に表現していくこととなります。文学作品や絵本のように、心の内側をじっくり細かく描くではありません。また登場する人物や動物などもそう多くはありません。

しかし、素朴な形をもつからこそ作者は語りたいたことを端的にくつきりと表現することができるとは。

2 紙しばいの文

作家は子どもたちに伝えたい大事なことを紙しばいで語っていきます。そして、演じ手も子どもたちもその作品を通していっしょになって楽しむことを願います。作者の思いと紙しばいを見る人々の思いがひとつになった時、その場は素晴らしい共感の場へと変わります。

紙しばいには、民話・子ども参加・日常生活を描いたもの・科学・数・色や形・動物や植物の生態等さまざまなジャンルの作品があります。そして、どんなジャンルの作品でも、紙しばいという形式が求める文があります。

1 紙しばいは、絵を見ながら耳で声を聞

りと示しやすいのです。

くのですから、文と絵のつながりが緊密であることが要求されます。つまり、絵を見ながら、今何が語られ、何が起きているのか、イメージを結びやすい文が必要です。

2 次に、登場する人や動物たち、特に主役たちの性格や考え、感じ方等を、くつきりと浮かび上がらせることのできる文であることです。そのために、多くは会話で書かれます。会話は、絵と文の距離を縮め登場する人や物の個性を、はつき

3 演じ手が語りやすい文体とリズムを持った文であることも大切です。絵は、ぬかれると同時に観客の目に飛び込んできます。その絵の細部をひとつひとつ語っている間は間がもちません。絵に描かれたことをどこを語り、絵に描かれていないことをどのように語るのか？そして何を強調したいのか？紙しばいの文は声にだしながら練り上げられていくのです。

さまざまなジャンルの紙しばい



民話 (脚本・堀尾青史 画・丸木俊)



創作(子どもたちの生活)
(脚本・神沢利子 画・梅田俊作)



科学(生物の生態)
(脚本・画 得田之久)



子ども参加(脚本・画 まついのりこ)

3 紙しばいの絵

紙しばいは、たくさんのお友だちと見るほうが楽しさが増します。そのために、いろいろな工夫がしてあります。

1 絵本のように細部が描き込まれていると、細かいところは遠くの子どもには良く見えません。また、いろいろな物や人物が重なっても良く見えません。ですから、紙しばいの絵は、遠見がきくようにはつきりくつきり描かれています。

2 紙しばいは、演じ手が進めていきます。絵本のように、読者が自由に進めるわけではありません。わかりにくいところにもどって、もう一度読み返すわけにもいきません。ですから、紙しばいの一場面

一場面は、見ている子どもたちが瞬時に内容を把握できる簡潔な絵が必要なのです。

3 紙しばいの絵で、とても大事なことのひとつに、アップとロングの組み合わせがあります。ぬくことで進む紙しばいは、ぬいた後にどのような絵がくるかはとても重要です。ぬいた後にアップの絵をもつてくることで印象を強めたり、ロングをもつてくることで余韻を深めたり、作品の世界の振幅を大きく豊かにする努力がしてあります。

4 色使いも大きな役割をはたします。紙しばいは右から左にぬかれていきますが、つぎの場面で、まず目に入ってくるのは色です。これまでのお話の流れに反するものが登場する時はどんな色にする

同じ画家の絵でも紙しばいと絵本では異なる手法がとられる



絵本「おしいれのぼうけん」
(古田足日・田畑精一 作) より

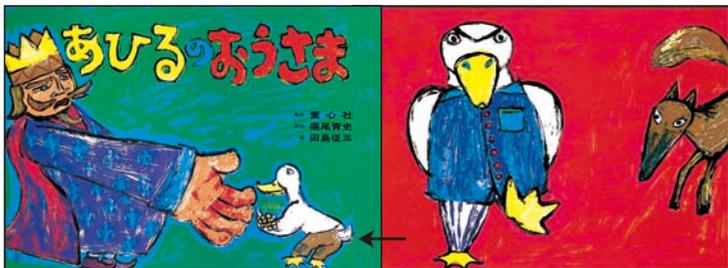


紙しばい「おとうさん」
(脚本・与田準一 画・田畑精一) より

か、主人公の気持ちを一番良く表現できる色はどんな色か？ 画面の美しさと共に色使いにも細心の心配りが必要です。



アップとロングの組み合わせ (矢印はぬく方向)
「たべられたやまんば」(脚本・松谷みよ子 画・二俣英五郎) より



色使いの変化 「あひるのおうさま」(脚本・堀尾青史 画・田島征三) より

5 紙しばいの絵には、いろいろなタイプがあります。その作品の世界を最も良く表現できる絵が画家に求められます。

4 演じる 演じる

演じ手の役割は、その作品の世界を深くつかみ、子どもたちに伝えることです。その世界を充分伝えきった時、紙しばいは初めて完結します。演じ手の自己顕示のために紙しばいがあるわけではありません。

しかし、大好きな先生やお母さんが、ちよつとよそいきの顔をして、時には登場人物の声を変えながら演じる時、演じ手の存在はとても大きいといえます。

子どもたちは、画面を見ながら演じ手の声だけでなく、全身から発するものを受けとめます。それと同時に、演じ手も子どもたちの表情や様子に気を配りながら演じていきます。その場の創りだす雰囲気によって、子どもたちと演じ手がことばを交わすこともあるでしょう。同じ紙しばいでも、

演じ手が「ぬく」ことで、だんだん見えてくる。このことは、人間が本質的にもっている、見たい！ 何がでてくるのだろうか！ という興味に合致しています。

ですから、ぬかれている時、観客の心は次に現れる画面に集中します。そして、ぬき終わった時、その場面のお話へと気持ちはずながつていくのです。紙しばいは、ぬくことによって集中と安定という心の動きを連続的につくっていきます。さらに、「ぬきながら」「さつとぬく」「ゆつくりぬく」「どちゅうまでぬいてとめる」等のバリエーションを加えて、集中と安定をさらに強めていくのです。すぐれた紙しばいは、ぬくことの効果を文と絵の両方で十分に生かしています。

また、演じ手がぬくことを大事に演じれば、そして大勢の観客がいれば、この集中と安定の心の動きはさらに強まり、紙しば

見ている集団によってテンポが違うこともあるでしょう。

紙しばいを一緒に楽しむことで、子どもたちと演者は笑ったり・喜んだり・驚いたり・怒ったりというような心の体験をしていくのです。この時間を共有することで、子どもたちと演じ手もまた心の交流をしていくのです。

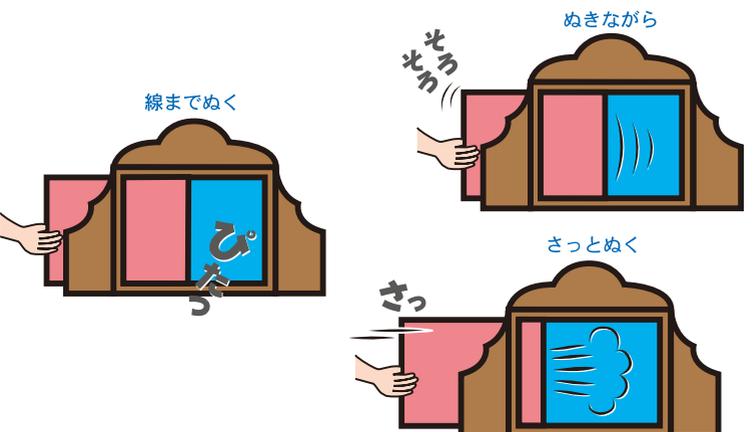
5 ぬく 演じる

紙しばいは、前の画面をぬいて次の画面につなげていくという独特の形態をもっています。

子どもたちは、次に何がでてくるのか？ 期待と興味を集中させて次の画面を待ちます。今まで見ることができなかった絵が、

いを見る楽しさは、いつそう大きくなるのです。

ぬき方のバリエーション



紙しばいの演じ方



紙しばいは演じて初めて完結するという特性をもっています。ですから演じることをぬきにして紙しばいを語ることはできません。

どのように演じるかはとても大事なことです。

演じる時に大切なことは、

* 演者がその作品が語っていることに共鳴していること

* その世界を観客と共に楽しむことです。

そうして、自然に子どもたちと向き合う時、演者の人間性がにじみでて、素晴らしい共感の世界が生まれます。

演じる時に気をつけること

① 大きさに演じる必要はありません。心をこめて演じれば、紙しばいに登場

するいろいろな人物や動物たちの気持ち

を自然に一生懸命伝えたくくなります。そして、声の調子や大きさを変えてみたくなります。わざわざ七色の声の発声練習をする必要はありません。

大きさに演じるより、むしろ自然に心をこめて演じれば充分その世界が観客に届くのが紙しばいなのです。

② 演じる前に紙しばいの順番を確認してください。順番が入れ代わったりしていると、お話がわからなくなつて、せっかく盛り上がった雰囲気がしらけてしまいます。

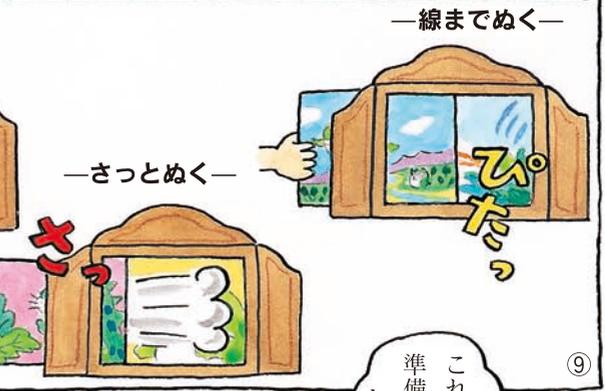
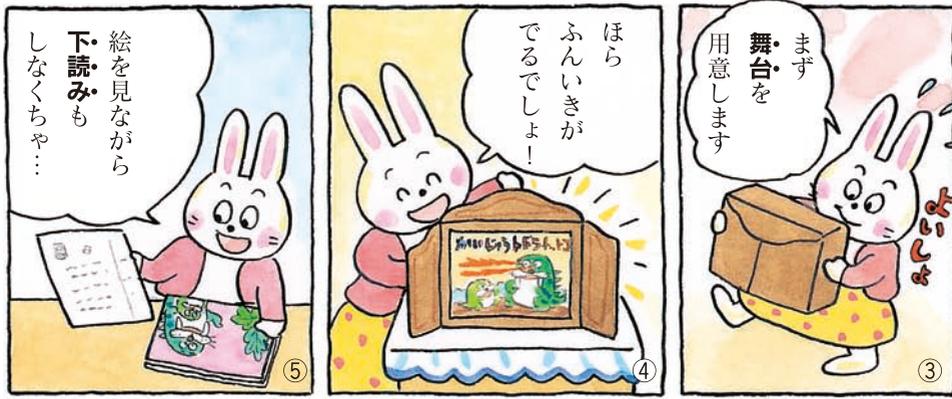
③ 作品によってさまざまですが、舞台の横に立ち、裏に書いてある文を読んだり子どもたちを見たりしながら進めていくのが一般的です。

④ 舞台を使つてください。舞台を使うことで、空間が仕切られ、紙しばいへの集中度が高まります。また、手で持ちながら演じるとぐらつくので、大事な「ぬく」の効果が半減してしまいます。舞台は子ども目の高さより少し上くらいがちょうど見やすいと思います。舞台の下に台を置くなどして調節しましょう。

⑤ 三面開きの舞台は、とじたまま紙しばいを入れ、「さあ、どんな紙しばいが出てくるかな？」などと言いながら、ゆっくり扉を開いていくと良いでしょう。

さあ、いつでも、どこでも、だれでも、演じることのできる紙しばいをやってみましょう！

かみしばいってたのしいな



Q 紙しばいは外国にはないのですか？

紙しばいの歴史について教えてください。

A 紙しばいという形式は日本特有のものといわれています。

そもそもは、江戸時代にあった「写し絵」が前身で、その後「のぞきからくり」や「幻燈」などの影響を受けながら、「立絵」（ペープサートのようなもの）の形になり、より簡単に作れて演じられる「平絵」（今の紙しばいと同じもの）が街頭で演じられるようになったといわれています。

この平絵による街頭紙しばいが戦前・戦中をへて、昭和二十年代くらいまで一世を風靡ふうびしました。しかし、衛生問題、内容面への疑問、そしてテレビの普及により次第に衰退していきました。

一方、戦前より紙しばいの良さが、主に

幼児教育の世界で注目され、出版紙しばいの形で制作され続け、現在では、幼児教育、学校、公共図書館他さまざまな場で利用されています。

ところが、最近ではビデオ、パソコンなどの台頭により、紙しばいは古い文化財と思われるがちです。しかし、生身の人間が語る、人間的で心のふれあいのある紙しばいの特質が見直され、特に幼い子どもたちの成長にかけがえのない文化財と考えられるようになりました。

このような紙しばいが、外国でも注目されるようになっていきます。ベトナムやラオスでは日本からの協力もあり、自国の作品が出版されています。フランスでは創作作品が、アメリカでは日本民話の翻訳作品が出版されています。紙しばいは今、KAMI-SHIBAIとして世界にはばたこうとしているのです。

Q 保育の現場で紙しばいを使うときに、

注意することはどんなことでしょうか？

A 紙しばいは、子どもたちがとても集中して見ますから、ややもすると安易に使われがちです。たとえば、お昼寝前のざわざわしているときに使ったり、お帰りの時間つなぎに使われたりしていることが多いのです。

そのような使われ方が絶対にいけないわけではありませんが、紙しばいは、演じ手（保育者）によって最終的に子どもたちに届けられるもの、ということを忘れないでください。行きあたりばつたりに作品を選ぶのではなく、きちんと下読みをして、作品内容を理解し、作品の心を表現するようにしてください。演じ手を通して子どもたちは作品を理解し、感動するのですから。

Q 子どもが紙しばいをやりたがりますが、

どのように指導したらよいのでしょうか？

A 大人が演じる場合と同様に、下読みからはじめましょう。その時にセリフを楽しく読むことを中心に心がけるとよいでしょう。裏面は平がなを基本に、漢字にはふりがなもあり、子どもにも読めるようになっていきます。ただ、声をだして読まなくてもよいところ（セリフのはじまりの人名や動物名、（間）や（ぬく）など、まで読んでしまうことがありますから、その点あらかじめ注意しておきましょう。あとは自由に演じてよいのです。

子どもが、みんなの前で演じることは、物語の理解力を深めることはいうまでもなく、表現力や発表力をつちかう貴重な経験になります。



高橋五山賞リスト

すぐれた幼児紙しばいの創造者高橋五山（1888～1965）を記念して、年間優秀作に与えられる紙しばい唯一の賞です。



- 1回（一九六二年度）
「池にうかんたびわ」 作家賞 川崎大治 画家賞 小谷野半二
2回（一九六三年度）
「きよとめがね」 脚色賞 堀尾青史 画家賞 遠藤てるよ
3回（一九六四年度）
「ななみちやんのえにつき」 画家賞 桜井誠
「とらつくらすけ」 画家賞 北田卓史
4回（一九六五年度）
「しごこのおい」 作家賞 与田準一
「いなむらの火」 画家賞 福田庄助
5回（一九六六年度）
「しわしわの手」 作家賞 有賀のぶ・川田百合子 画家賞 井口文秀
「宮沢賢治童話名作集」 作家賞 堀尾青史 他 画家賞 滝平二郎 他
6回（一九六七年度）
「おおきなだいこん」 作家賞 川崎大治 画家賞 鈴木寿雄
7回（一九六八年度）
「あげはのルン」* 作家賞・画家賞 得田之久
「おとうさん」* 画家賞 田畑精一
8回（一九六九年度）
「天人のよめおま」 作家賞 松谷みよ子 画家賞 中尾彰
9回（一九七〇年度）
「こねこちゃん」 作家賞 堀尾青史 画家賞 安 泰
10回（一九七一年度）
「ごごへいくのかな」 作家賞 堀尾青史
「たべられたやまんば」* 画家賞 二俣英五郎
11回（一九七二年度）
「ちいさなきかんしゃ」* 画家賞 津田光郎
「どつちがたかい」(教育画劇) 画家賞 池田仙三郎
12回（一九七三年度） 該当作なし
13回（一九七四年度）
「ねごとむまり」 作家賞 与田準一 画家賞 安 泰
「ケーキだ はいはい」 集団作品賞（指導・堀尾青史） 画家賞 久保雅勇
14回（一九七五年度）
「つまいものやま」* 作家賞 佐々木悦 画家賞 箕田源二郎
「はっぱであそぼつ」 奨励賞・作家賞 川島美子
15回（一九七六年度）
「どうぞのいす」(教育画劇) 作家賞 香山美子
「どうぶつ山のクリスマス」 画家賞 久保雅勇
16回（一九七七年度）
「しょくどくは88かい」 奨励賞・作家賞 上地ちづ子



- 「ひなのやまかご」 奨励賞・作家賞 古山広子
「あてこあてこ」*「おいのおねだん」(教育画劇) 奨励賞・画家賞 和歌山静子
17回（一九七八年度）
「おおえやまのおに」 奨励賞・画家賞 須々木博
18回（一九七九年度）
「はっぱのぼうけん」 奨励賞・画家賞 月田孝吉
19回（一九八〇年度）
「くじらのしま」 作家賞 堀尾青史 画家賞 穂積肇
「たなばたものがたり」 画家賞 三谷鞆彦
20回（一九八一年度）
「つんぶくだるま」 画家賞 金沢佑光
「にしになったきつね」* 奨励賞・画家賞 藤田勝治
21回（一九八二年度）
特別賞 小林純一
「おおきなほつし」(教育画劇) 奨励賞 木曾秀夫
22回（一九八三年度）
「おおきく おおきく おおきくなあれ」* 作家賞・画家賞 まついのりこ
「ごんごんごんくま」 奨励賞・画家賞 安 和子
「おじいさんのでまわいこと」(カタツムリ社) 特別賞 とさわひろみ
23回（一九八四年度）
「おひやくしよとめうし」 作家賞 松野正子
「くちのあかないカバヒポポくん」* 画家賞 田畑精一
「かぜのかみとこども」 画家賞 若山 憲
24回（一九八五年度）
特別賞・右手和子 特別賞 加古里子
25回（一九八六年度）
「よさくどんのおよめさん」 作家賞 秋元美奈子 画家賞 水野二郎
「シュークリームのおきやくさま」(教育画劇) 作家賞 西村彼呂子 画家賞 アリマジュンコ
「あかふんせんせい」(東京総合教育センター) 「いわつばめとおせのおじさん」 などにより 特別賞 渡辺享子
26回（一九八七年度） 該当作なし
27回（一九八八年度）
「だれかさんてだあれ」 作家賞 香山美子 画家賞 安 和子
「嘉代子ざくら」(汐文社) 画家賞 井口文秀
28回（一九八九年度）
「がんばれ！ 勇くん」(汐文社) 脚本賞 上地ちづ子
29回（一九九〇年度）
奨励賞「ニヤオン」* 脚本 都丸つや子 画 渡辺享子
30回（一九九一年度）
五山賞「ゲンじいとかつぱ」

1冊ずつ購入できる紙芝居の中から
ジャンル別に代表的な作品を紹介します

子ども参加紙芝居



ぶたのいっぴい
脚本・画 ● 高橋五山
いっぴよに生まれたら5匹の子ぶたは顔も形もみな同じです。でも、しっぽだけが違います。あてっご紙芝居。 8場面 定価 本体1400円(税別)

いっぴよのわるいコックさん
脚本・画 ● まついのりこ & ひょうしき
コックさん、ごきげんなおしてよ、とめくと、あれあれ、顔が横にのびて…。演じる楽しさがある作品。 12場面 定価 本体1900円(税別)



おおきくおおきくおおきくなあれ
脚本・画 ● まついのりこ
小さな小さなぶたが一匹。みんなで、大きく大きく大きくなあれ、っていつてみて。そしたら、ほい…。 8場面 定価 本体1400円(税別)

かりゆしの海
脚本・画 ● まついのりこ 写真 ● 横井謙典
沖繩のすばらしい海への思いを、演じ手と観客が心をこめてとどめる言葉に合わせて展開していく紙芝居。 8場面 定価 本体1400円(税別)



五山賞特別賞「アリとバッタとカワセミ」*
脚本・画 イ・スジン
50回 (二〇一一年度)

五山賞「りゅうぐうのくろねこ」*
脚本・画 イ・スジン
51回 (二〇一二年度) 該当作なし
52回 (二〇一三年度)
53回 (二〇一四年度)

五山賞「ごん助いさまとえんま大王」(教育画劇)
脚本 わしおとしこ 絵 伊野孝行
脚本賞「きつねの盆おどり」(雲母書房)
脚本・絵 ときわひろみ

54回 (二〇一五年度)
五山賞「カヤネズミのおかあさん」*
脚本 キム・ファン 絵 福田岩緒
55回 (二〇一六年度)
奨励賞「おひるねです」*
脚本 内田麟太郎 絵 市居みか
※出版社名の書いてないものは童心社刊
*印 童心社で現在販売しているもの



奨励賞「太陽はどこからでるの」*
作・画 チョン・ヒエウ
36回 (一九九七年度)

「どんぐりのあかちゃん」*
奨励賞脚本賞 島本一男
37回 (一九九八年度) 該当作なし
38回 (一九九九年度)

審査委員会推薦賞
「ねんね ねんね」(教育画劇) 画 いそみゆき

五山賞絵画奨励賞
「やさしいまものバツパー」の絵に対して絵・降矢なな*
49回 (二〇一〇年度)

「ふしぎなしっぽのかなへびくん」画 小林ひろみ
39回 (二〇〇〇年度)
審査員推薦作品「すてきなおにいさん」
脚本 古山広子 画 藤本四郎
40回 (二〇〇一年度)

五山賞「トラのおんがえし」 脚本・絵 渡辺享子
「おかあさんまだかな」* 脚本・絵 福田岩緒
五山賞絵画賞「なせおふるにしようぶをいれるの?」*
絵 伊藤秀男
41回 (二〇〇二年度) 該当作なし
42回 (二〇〇三年度)

五山賞「かあさんのイコカ」 脚本・絵 降矢洋子
43回 (二〇〇四年度)

五山賞「てっだいねこ」
脚本 水谷章三 絵 大和田美鈴
特別賞「とまがしま」* 絵 田島征三
奨励賞「つくいすのホー」 絵 松成真理子
44回 (二〇〇五年度) 該当作なし
45回 (二〇〇六年度)

五山賞「おじいさんといぬ」 脚本・絵 藤田勝治
五山賞「のーびたのびた」* 脚本・絵 福田岩緒
46回 (二〇〇七年度) 該当作なし
48回 (二〇〇九年度)



脚本 平方浩介 画 福田庄助
「ニルスのはしぎなたび」
五山賞絵画賞 油野誠一
奨励賞「ほくのきもち」
脚本 三好富美子 画 藤本四郎
31回 (一九九二年度)

五山賞「なめとこ山のくま」
原作 宮沢賢治 脚本・画 諸橋精光
「ゆしきわらし」 五山賞絵画賞 篠崎三期
32回 (一九九三年度)

五山賞「ふうたのはなまつり」*
原作 あまんきみこ 脚本 水谷章三 画 梅田俊作
33回 (一九九四年度) 該当作なし
34回 (一九九五年度)

奨励賞「どうぶつのでんきよほつ」
脚本 杉浦宏 画 やべみつりのり
35回 (一九九六年度)

21世紀にのこしたい紙芝居の贈りもの



おとうさまさぶちゃん

作・画●馬場のほる

洋服をママに着せてもらっているさぶちゃんは、王様にまがえられて、大失敗。しつけのテーマの作品。 12場面 定価 本体19000円(税別)

せかい一大きなケーキ

作●古田定日 画●田畑精一

ひろ子は12人兄弟。今年は紙で誕生日のケーキを作りはじめます。子どもたちの夢とエネルギーの応援歌。 12場面 定価 本体19000円(税別)

おだんごころ

作●坪田譲治 画●二俣英五郎

おじいさんのおだんごがころがって地蔵様のもとへ。坪田譲治の昔話が版画的な手法で描かれています。 12場面 定価 本体19000円(税別)

なんにもせんじん

原作●巖谷小波 脚本●川崎大治 画●佐藤わき子

なまけものたすけの家にやってきた仙人は、たすけがなまけているとどんどん大きくなっていきます。 12場面 定価 本体19000円(税別)

おひやくしよとえんまささま

再話●君島久子 脚本●堀尾青史 画●二俣英五郎

元気なおひやくしよ、りゅうじいさんの知恵でえんま様や鬼たちをやっつける痛快な中国の民話です。 12場面 定価 本体19000円(税別)



やさしいおともだち

原作●武田雪夫 脚本・画●瀬名恵子

馬とねずみはなかく暮らしていました。ある日馬小屋が火事に…。紙芝居的な画面構成が効果的です。 12場面 定価 本体19000円(税別)

せみとくまのこ

作●鶴見正夫 画●いわむらかずお

くまのだいちゃんは、元気な子。あそびともだちをさがしに原っぱへきました。みんなはお昼寝中です。 12場面 定価 本体19000円(税別)

あてっこ あてっこ

原案●野沢茂 脚本●小林純一 画●和歌山静子

数と形と大きさの認識を、あてっこあそびで展開する幼児向けの紙芝居。はつきりした絵が特長的です。 12場面 定価 本体19000円(税別)

おばけとやっちゃん

脚本●松野正子 画●渡辺有一

お泊まり保育で、やっちゃんの心配はおねしよです。そこに、人をおどかさ練習中のおばけのほうやが…。 12場面 定価 本体19000円(税別)

うめぼしさん

脚本●神沢利子 画●まじませつこ

美しくリズムカルな言葉が印象的な詩の紙芝居。絵によって広がるイメージで、ゆったり語ってください。 12場面 定価 本体19000円(税別)

紙芝居出版半世紀の結晶 紙芝居の魅力がいっぱいの作品集



きたかぜのくれたテーブルかけ

脚本●川崎大治 画●桜井誠

少年ブーツは粉をとり返しに、北風の所へ行きました。勇気をもって行動することの大切さを描いた作品。 16場面 定価 本体22000円(税別)

天人のはごろも

脚本●堀尾青史 画●丸木俊

人のいい総助は天人の羽衣を権平にだましとられてしまいます。美しい絵と暖かい文章で描く羽衣伝説。 16場面 定価 本体22000円(税別)

はなのすきなおじいさん

中国の話より 脚本●小林純一 画●小谷野半二

花のすきなおじいさんの庭を横どりしようと、男たちがやってきました。勧善懲悪のドラマチックな物語。 12場面 定価 本体19000円(税別)

おとうさん

脚本●与田準一 画●田畑精一

魔法がおとうさんに化けて子どもをさらいました。本物と区別できないので…。色数を制限した力強い画面。 12場面 定価 本体19000円(税別)

てんとむしのテム

脚本・画●得田之久

てんとむしのテムがひとりてんとむしにでかけました。背景を単彩にし、虫だけに色をつけた絵が効果的。 12場面 定価 本体19000円(税別)

あひるのおうさま

フランスの民話より 脚本●堀尾青史 画●田島征三

貸したお金を返してもらいに、アヒルの大冒険がはじまります。迫力のある絵で描くユーモアあふれる話。 12場面 定価 本体19000円(税別)

おねぼうなじゃがいもさん

原作●村山善子 脚本・画●村山知義

たまねぎを見送りにいく約束をしたにんじんはじゃがいもを誘いますが…。民話のようなおもしろい物語。 12場面 定価 本体19000円(税別)

きつねとごんろく

脚本・画●馬場のほる

おひとよしの鬼のごんろくは、またきつねにだまされてしまいます。とほけた味わいの馬場のほるの世界。 16場面 定価 本体22000円(税別)

ふくはうち おにもつち

脚本・画●藤田勝治

庄屋さんの田んぼでは不思議な事が次つぎおこります。働く事の大切さを描く、おもしろい民話紙芝居。 12場面 定価 本体19000円(税別)

ふうちゃんのそり

脚本●神沢利子 画●梅田俊作

小さなふうちゃんのそりは、いきおいあまって谷底へ…。躍動的で暖か味のある絵で描くファンタジー。 12場面 定価 本体19000円(税別)

民話紙芝居

たべられたやまんば

脚本●松谷みよ子 画●二俣英五郎
お寺のおじょうさんは、どうしてもおばあさんの家に遊びに行くという小僧に、3枚のおふだをくれました。16場面 定価 本体2200円(税別)

にじになったたきつね

脚本●川田百合子 画●藤田勝治
いたずらすぎのころさえもんぎつねは、村はずれの病気のおじいさんが虹を見たいというのを聞いて…。12場面 定価 本体1900円(税別)

くわす女房

脚本●松谷みよ子 画●長野ヒデ子
むかし、けちんぼな男がいた。「めしくわぬよめここねえかなあ」と歌うと、ほんとによめこがやってくる。12場面 定価 本体1900円(税別)

まほうのふで

脚本●川崎大治 絵●二俣英五郎
マーリヤンは、仙人からふしぎな筆をもらいました。その筆で絵をかくと、何でも本物になるので…。16場面 定価 本体2200円(税別)

ねずみちようじや

脚本●川崎大治 画●久保雅勇
畑ではたっていたおじいさんが、おにぎりを食べようとすると、おにぎりはねずみのあなへころころ…。12場面 定価 本体1900円(税別)

ゆめみこぞう

脚本●若林一郎 絵●藤田勝治
正月の朝、すてきな初夢をみたこぞうはとのさんにとんな夢か教えず、おにがしまに流されてしまいました。12場面 定価 本体1900円(税別)



創作紙芝居 (幼児から)

ひよこちゃん

原作●チユコフスキー 脚本●小林純一 画●二俣英五郎
『2歳から5歳まで』の著者・チユコフスキーの作品を紙芝居化。ひよこの成長をやさしい言葉で描く。12場面 定価 本体1900円(税別)

こねこのしろちゃん

脚本●堀尾青史 画●和歌山静子
まっくらなねこが、赤ちゃんを5ひきうみました。ところが、4匹はくろで、1匹だけまっしろなねこでした。12場面 定価 本体1900円(税別)



てんからおだんご

脚本●高橋五山 画●金沢佑光
おばあさんが庭でひなたぼっこをしていると、空からお皿とくしとだんごがじゅんばんに落ちてきました。12場面 定価 本体1800円(税別)

自然知識紙芝居

だんごむしのころちゃん

脚本●高家博成 画●仲川道子
だんごむしのころちゃんは、えさをさがしに外にでました。すると、アリやカマキリやモグラがい…。12場面 定価 本体1900円(税別)

おたままたまごろう

脚本●金山美沙子 画●若山憲
池のそで生まれたゼリーのよう卵から、しつぽがはえて、おたまじゃくしになったたまごろうは…。12場面 定価 本体1600円(税別)



童心社の紙しばいの購入方法

1. 年間予約による購入方法

童心社は定期刊行かみしばい「年少向けおひさまこんにはシリーズ」と「ともだちだいすきシリーズ」を刊行しております。この両シリーズの年間予約を承わっておりますので、園に出入りされている保育教材店にお申しこみください。

2. 随時購入の方法

現在、童心社は500余点の紙しばいを販売しています。毎年、新刊セット紙しばい(分売可)も発売しています。保育教材店または書店にご注文いただければ、購入できます。

3. 個人での購入方法

童心社の紙しばいは書店でも取り扱っております。店頭がない場合でも、ご注文していただければ、購入できます。万一、扱っていただけない場合は、直接小社にご注文ください(送料をご負担いただく場合があります)。

4. 紙しばいの分売について

セット紙しばいには、分売不可になっているものもありますが、分売可能な紙しばいも増やしています。童心社の「かみしばいと図書」総目録をご覧のうえ、ご注文ください。



童心社